

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000051		
法人名	社会福祉法人さわらび会		
事業所名	グループホーム白珠 ユニット1		
所在地	愛知県豊橋市平川本町1丁目15-2、15-3		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和2年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウィルスの関係で皆さんストレスがたまりイライラすることが多いですが、皆さんと相談し楽しめること、食べたい物、困っている事など、コミュニケーションを取りながら職員が気付けるように頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新型コロナウイルス感染の影響により面会や外出、施設行事、地域活動への参加が自粛され、ホーム内で過ごす時間が多く利用者のストレス解消の為に、レク、食事、おやつ作り、作業として割りばしの袋入れ、さわらび誌作りや、フラワーアレンジメントまた作品展に出展する為共同で作品造りに取り組んでいる。利用者の運動機能が低下しないように職員の提案でホーム内を歩くことを始めたら、徐々に参加する利用者の数が増え各ユニット全員が夕食前に曲に合わせて歩くのが日課となっている。またケアも厚くなり利用者に深く寄り添い紙パンツから布パンツに移行した利用者もいる。今後コロナが落ち着いたら元の生活に戻れるように利用者の体力維持に力を入れていきたいと職員一同頑張っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、さわらび会理事長、医学博士山本孝之の「認知症介護の三原則」を唱和し、いかなる時も理念を堅持し、サービスに努めています。	各ユニット毎に朝礼時理念を唱和することで共有し、意識付けを図っている。又会議の際に振り返り話し合い共有し、利用者一人ひとりに寄り添ったケアが出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナウィルス対策のため、ボランティア等外部からの受け入れは中止になっています。	散歩の際に近隣住民と挨拶を交わしホームを認識して貰っている。町内会に加入し回覧板で地域の活動を周知している。ボランティアの受け入れオレンジカフェ等地域との繋がりはコロナウィルス対策の為中断されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェは中止になっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は出来ないので近況報告等、アンケートをとりました。	会議ではホーム活動や利用者の様子を報告し勉強会も行ってきていたが、新型コロナウイルス感染予防の為実施出来なくなり参加者に報告書とアンケート形式を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所長寿介護課の企画作品展に入居者様が作った物を出店しました。	市役所の担当者とは電話連絡や書類提出で出向く際にホームの状況を説明し相談する等協力関係を築くように努めている。実践者研修やケアマネ更新の研修を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、防犯上施錠があります。フロア入口の施錠は、階段との温度差があったり、その日の入居者の様子で異なりますが、拘束ゼロを意識してケアに努めています。定期的に委員会を開き、気になること、困っていることを話し合いケアに取り入れています。	玄関は安全の為施錠されている。身体拘束の研修は年間スケジュールで決まっている。各フロアで日々のケアの際何か気付きがあれば職員間で話し合い解決しケアの統一化を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り定期的に勉強会を開催しています。小さなことも見逃さない、職員の言葉使いなど意見交換を行い改善しています。どんな行為が虐待にあたるのか、勉強会で学び、今現場はどうかの話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の入れ替わりもあり勉強会を実施。白珠では2名が成年後見制度を利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が、ご家族に、書類を見て頂きながら、説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	白珠として年1回アンケートを行い、法人全体で年2回満足度調査も実施して、全体会議を開催し意見を反映しています。	利用者からは日常の会話の中で聞きだし家族からは電話や訪問時に聞き、何か有れば申し送りノートに記入し速やかな対応に心掛けている。又アンケートや満足度調査を実施し集計し話し合っている。現在面会はガラス越しで行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月所長参加の会議を開き、自由に意見質問し話し合います。	決まった面談は実施されていないが何か有れば管理者は職員の意見を聞き、直ぐ出来るレクや食事面での意見は取り上げ運営に反映されている。希望休も取れ働きやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回法人の代表者へ、一人一人がメッセージを届ける機会があります。職員のキャリアに合わせ研修会が企画され、参加しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修が準備され、参加する機会があります。今年よりリモート研修での参加が増えました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症グループホーム協会、愛知県認知症連絡協議会に属し、研修や全国大会に職員を派遣して、交流と研修をしています。全国大会参加予定でしたが、中止になりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時には、家族や担当ケアマネジャーから情報提供をして頂き、本人とは面談時、要望などお話を伺います。入居後は時間をかけ職員全体で観察して、支援方法を相談しながら信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時には、家族や担当ケアマネジャーから困っていることなどゆっくりお話しをお聞きます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、家族、本人と話し合い、意見交換して、法人内他施設(特養など)協力病院とも連携し、その時に必要なサービスを見極める努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることなど(洗濯干し、たたみなど)はして頂いたり、一緒に出来ることは、お声を掛けて頂き、共に生活するという安心感を持って頂くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会禁止が続き、毎月白珠便りでご本人様の状況を伝えたり電話で話したりしていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策で思うように出来ませんでした。	現在は玄関のガラス越しで家族、友人と面会している。病院以外の外出は今は難しいが法事など特別な場合は許可を貰って外出されている。年賀状、暑中見舞い、電話の取り次ぎなど馴染みの関係が途切れない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や状態をみて、リビングの席や配置を変えたりして、皆さんが、穏やかに落ち着いて過ごせるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族がフラワーアレンジメントのお花を注文されたり、お義母様の相談を受け入居されたりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時に、ご家族からお願いをお聞きして、出来る範囲で個別ケアで対応しています。	入居前に家族から生活歴や趣味などをきくことが現在できないので、入居してから入居者の人となりを知るために、ともかく寄り添い語り掛け、会話から得られた情報を個々の申し送りノートやフロアでの話し合いで共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に直接お聞きしたり、ご家族からおうかがいして、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで、入居者様の情報を、職員間で共有していますし、個別の生活記録や、申し送りノートも活用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、ケアチェック表でケアプランを確認し、担当者を中心に本人に合ったケアを考え、毎月月末に評価して見直し、現状に合ったケアプランを作成しています。	毎日一人ひとりのケアプランにあわせたチェック表があり、プランにそって支援をしている。毎月フロア会議で入居者の状態を話し合い、変化にあわせて都度計画の見直しを行っている。毎月家族にはホームに来てもらう体制をとっているため、その折に入居者の様子を伝え、計画の見直しについても説明をして了解をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアチェック表を使いケアを確認しています。生活記録はリアルタイムで気づき、変化を記入しています。出勤時には、生活記録、申し送りノートを確認しています。受診者情報は、適宜朝礼時に発表しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員で出来る範囲は、ケアカンファレンスを行い対応していますが、ご家族の指示が必要な場合は、報告相談しています。全体の意見を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出は散歩のみ許可が出ているので、施設まわりを歩いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時は、協力病院へ上申、受診する事が出来ます。希望や必要に応じて、他医療機関を、ご家族と受診される方もみえます。	月に一度の往診のある内科の協力医にかかっている。医師や看護師とは24時間連絡をとることができ、緊急時の対応について指示を仰げる。短期入院や他科の受診などは協力医と連携をとりつつ家族の支援も得ながら近隣の病院を利用することもできる。歯科に関しては都度職員支援で受診をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良、異常がみられた時は、協力病院の看護師に上申して指示を頂いています。場合によっては、協力病院を受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携はとれています。病院の相談員とも情報の交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人の方針として看取りは行いませんが、その過程では、ご家族の希望を理解して、ユニットでケアカンファレンスを行い支援しています。重度化した場合については、家族と話し合いながら、協力病院、特別養護老人ホームの関係者と相談して対応しています。	入居前の説明で車椅子を使用するようになった場合は、病院や他施設へ移ることを伝えてあり、看取りは行わない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年は出来ていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、停電、断水等の炊き出し訓練等実施しています 隣が同法人の障がい者グループホームで、連携が取れています。	避難訓練は年に二度行うことになっており、近隣の人たちへの声掛けも行っている。今年度は停電になった時の訓練を行い、停電でも作れる非常食を食してみた。備蓄も50人が3日すごせる分を用意している。新しい職員も増えたので、消防との連携もとって避難訓練を行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は、必ずノックをしています。トイレ案内は、耳元で話すようにしています。リハビリパンツなどは、紙に巻いて捨てています。他の利用者様の目につかないよう処理しています。	入居者を基本苗字で呼び、居室に入る時には必ずノックをするようにしている。ほかの入居者が部屋に入る恐れがある時には希望者の居室の施錠も行う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のご希望に添えるよう、利用者様の言葉に、しっかり、耳を傾けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんで何をするか相談していただき、職員でそれに合わせて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は、任せています。出来ない人は、一緒に選んでいます。出来るだけ、利用者様に選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が出るよう、盛り付けに気を付けています。お食事前に、メニューをお伝えしています。時々、皆さんのリクエストを聞いたりして楽しみメニューも考えます。	法人で一括購入した食材を使い、栄養士がたてた献立をもとに手作りした食事を提供している。ホームで育てた野菜を使ったり、会話から引き出した食べたい食事を用意することもある。おやつレクや、お誕生日の特別食、おせちなど、食事を楽しめるよう工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人、水分量・食事量をチェックしています。その方に合った形状(ミキサーなど)にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1週間に1度、義歯を消毒しています。一人一人、職員が付き添って、して頂いています。しっかり磨けない方は、職員が手伝っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立している方も時々声をかけたり、介助必要な方は排泄表を付けて案内し習慣にして自立に向けて支援しています。	排泄チェック表はあるが、排泄自立の人は様子を見ながらの声掛けにとどめている。トイレは各居室にある。入居者の状態にあわせて声掛けすることで、なるべく布パンツでの生活できる状態を維持するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は好みを聞いたりし、飲み物の工夫をしています。水分量の少ない方の便秘が多いので個々で声掛けし進めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に合わせて、入浴介助をしています。行事がある時は時間を変更しています。入浴前はバイタル確認をします。安全に注意して支援しています。	基本的に一日おきの入浴を支援している。希望があれば毎日でも可能だが現状は希望する入居者はいない。また拒否があれば声掛けの工夫や担当者をかえたりして、週に二度は入ってもらえるようにしている。柚子湯、しょうぶ湯の提供もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にされています。夜間も好きな時間に帰室し休まれています。夜間見守り、巡回は定時に行っています。リビングでウトウトされる方が増えました。様子を見てベッドへ案内します。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を理解して、利用者様の変化は見過ごすことがないよう、気を付けています。気になる事がある時はすぐ病院に上申、相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のお手伝いは体調に合わせてお願いしています。皆さんで音楽に合わせて歩いたり季節のおやつ作りをしたり施設内で出来ることを皆さんと考えます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は施設まわり散歩のみです。	本来は近所へおやつを買いにいたり、あるいは遠出なども行っていたが、現在は新型コロナの影響で施設周りの散歩にとどまっている。影響が収束し自由にでかけられるようになったら、家族との外出や遠足なども復活する予定。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は出来ません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状作りをしたりしています。 電話をしたいと言われる時は職員の方からこちらにかけていただくように手配します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭の花は皆さんで植えました。 月1回のフラワーアレンジメントの花がきれいに並びます。	芝生の庭には花が、小さな畑にはトマトやオクラ、キュウリなどが植えられ入居者が育てている。リビングの壁には毎月皆で作った貼り絵が飾られ、フラワーアレンジメントのあとには皆の作品が並べられる。あちらこちらに置かれた長椅子でくつろぐこともできる。毎朝入居者と職員と一緒に掃除をして清潔を維持している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに大きなソファが置いてあり、好きな時にテレビを見たり、ウトウトされたり、お話されたり、リラックスして過ごされています。 他の方の部屋へ遊びに行ったり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好みの家具などを配置して、衣類なども自由にされ、利用者様の好みに合わせて、居室作りが出来ています。	入居の際に使い慣れたものなどをもってきてもらっており、テレビや小さな収納ボックスをもちこんでいる人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関からすべてバリアフリーで、自由に動かれています。洗濯物干し・たたみ、屋内の散歩など、なるべく体を使って、動くように、声掛けしています。		